

論文 / 著書情報  
Article / Book Information

題目(和文)	留学生と日本人学生の異文化コミュニケーションにおけるメディア使用の影響
Title(English)	The Influence of Media Usage on Intercultural Communication between International Students and Japanese Students
著者(和文)	叶少瑜
Author(English)	Shaoyu Ye
出典(和文)	学位:博士(学術), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第9910号, 授与年月日:2015年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:室田 真男,中川 正宣,武井 直紀,前川 眞一,中山 実
Citation(English)	Degree:., Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第9910号, Conferred date:2015/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

## 論文要旨

THESIS SUMMARY

専攻： Department of	人間行動システム	専攻	申請学位 (専攻分野)： 博士 ( 学術 ) Academic Degree Requested Doctor of
学生氏名： Student's Name	叶 少瑜		指導教員 (主)： 室田真男 教授 Academic Advisor(main)
			指導教員 (副)： Academic Advisor(sub)

### 要旨 (和文 2000 字程度)

Thesis Summary (approx.2000 Japanese Characters )

本論文は「留学生と日本人学生の異文化コミュニケーションにおけるメディア使用の影響」と題し、全 5 章構成とした。第 1 章「序論」では、本論文の背景となる異文化コミュニケーションの理論を示し、日本における留学生のケータイ (スマートフォン以外の携帯電話端末)・スマートフォン・PC による通話・メール・インターネットの使用が異文化コミュニケーションに与える影響を明らかにする意義を述べた。そして、本論文の目的は、次の 3 点を明らかにすることであると示した。(1) ケータイを利用した日本語による異文化コミュニケーションでは、通話とメールによる違いにより日本人学生の印象形成に与える影響がどの様に異なるのか、(2) 留学生の日本語能力によりケータイの使用状況がどの様に異なるのか、それに伴いコミュニケーションメディア観やメディア利用に対する認識がどの様に異なるのか、(3) 留学生のケータイ及び PC 使用が、日本における異文化適応状況の向上にどの様に寄与しているのか。

第 2 章「中国人留学生と日本人学生の異文化コミュニケーションにおけるケータイ使用の影響」では、中・上級日本語能力を有する中国人留学生 (日本語能力試験 1 級・2 級の合格者及びそれに相当する者) が日本人学生の質問に対しケータイを利用し通話あるいはメールにより日本語で回答するという実験を行い、通話とメールの違いによる日本人学生の中国人留学生に対する印象形成の差異を検討した。中国人留学生と日本人学生の 35 ペアを分析した結果、日本人学生は、中国人留学生からの通話によるメッセージに比べて、メールによるメッセージの方がより特徴的な印象を持ちやすかったことが示された。メッセージ内容や量の分析結果より、ケータイのメールメッセージの日本語の文法的誤用の多さが特徴的な印象形成の要因になっていることが明らかになった。

第 3 章「留学生のコミュニケーションメディア観と使用状況、個人的要因との関係」では、留学生 397 名を対象に調査・分析した結果より、中・上級日本語能力を有する留学生 (日本語能力試験 1 級・2 級の合格者) のメール利用は、PC よりケータイを多用していることが明らかになった。そして、第 2 章の結果と併せ、中・上級日本語能力を有しているにもかかわらずケータイ・メールによる日本語使用には、より多くの指導が必要であることが示唆された。次に、コミュニケーションメディア観に関しては、中・上級日本語能力の留学生はケータイによる通話とメールの両方に対し「情報伝達」と「友情増進」の効果を高く評価した。一方、日本語能力の低い留学生は概して PC メールの効果を高く評価した。この結果は、ケータイの入力インタフェースの難しさが影響したと思われる。更に、スマートフォンを含めたメディア利用に対する認識について 56 名分のアンケートを分析した。その結果、ケータイ使用者に比べて、スマートフォン使用者は「情報検索」に対する認識が高いこと、そして、インターネットは、スマートフォンは「情報検索」に、PC は「情報閲覧」に主に利用されていることを明らかにした。

第 4 章「留学生のコミュニケーションメディア使用が異文化適応状況に及ぼす影響」では、第 3 章の 397 名への調査結果をもとに留学生のコミュニケーションメディア使用と異文化適応状況の関係を共分散構造分析により明らかにした。ここでの異文化適応状況は、日本における生活の「適応感」と「満足度」、一般的な日本人学生に対する「好意度」を扱った。その結果、(1) コミュニケーションメディア使用が全体として異文化適応状況に正の影響を及ぼした。(2) コミュニケーションメディア使用は、PC よりもケータイ、そしてケータイではメールの送信頻度に大きな影響が見られた。(3) 異文化適応状況は、居心地の良さと関係している「満足度」及び「好意度」と大きな関係があり、「適応感」とほとんど関係がないことが明らかになった。ここで、「適応感」が向上していないことは、ケータイ使用により異文化コミュニケーションは促進されていないことを意味しており、留学生のケータイ使用が日本人学生との交流に影響を及ぼし、同言語話者と異言語話者との「分層化」の要因になることが考えられる。

第 5 章「結論」では、留学生と日本人学生の異文化コミュニケーションにおけるメディア使用の影響をまとめ、以下のように提言を行った。(1) 中・上級日本語能力を有する留学生にとってもケータイによるメールは日本語の文法的誤用が起りやすく、指導が必要である。(2) ケータイ使用は留学生の日本社会における真の適応には促進効果がないことから、それに留意しながら、対面などによるコミュニケーションが必要である。

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note：Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).

(博士課程)  
Doctoral Program

## 論文要旨

THESIS SUMMARY

専攻： Department of	人間行動システム	専攻	申請学位 (専攻分野)： 博士 Academic Degree Requested	Doctor of	( 学術 )
学生氏名： Student's Name	叶 少瑜		指導教員 (主)： Academic Advisor(main)	室田真男	教授
			指導教員 (副)： Academic Advisor(sub)		

要旨 (英文 300 語程度)

Thesis Summary (approx.300 English Words)

This dissertation aims to clarify how various media usages influence intercultural communication between international students and Japanese students. Based on the theories of intercultural communication, this study focuses on (1) Japanese students' impression formations of Chinese students through cell phone communication, (b) international students' perception of different communication media, which is related to their usage of cell phones/computers taking into consideration their different Japanese language levels, and (c) international students' intercultural adaptation situation in Japan.

As a result, it was found that (1) Japanese students' impressions of Chinese students via cell phone text messages were more stereotypical than those via cell phone calls, due to the Chinese students' syntax errors in their Japanese language usage although nearly 70% had passed the JLPT-Levels 1&2. (2) International students with JLPT-Levels 1&2 sent more cell phone text messages and accessed the Internet via cell phones more frequently, and perceived cell phone usage to be more effective than computers, while international students who did not passed JLPT 1&2, sent emails via PC frequently and perceived PC usage as more effective. (3) International students' communication media usages, especially of cell phones, had a particularly positive influence on their satisfaction and likeableness vis-a-vis regular Japanese students, which suggested that cell phone usage made a greater contribution to promoting their satisfaction and likeableness than computer usage. However, there was no significant correlation between intercultural adaptation situation and their perception of adaptation, which meant that cell phone usages had no effects on promoting their communication with Japanese people.

From the above results, the author suggests that (a) it is necessary to offer grammar-based guidance for international students' usage of cell phone text messages since there were more syntax errors in Japanese language even among the mid-advanced level of Japanese learners who used more cell phone text messages, and (b) people need to realize that cell phone usage does not promote international students' real adaptation in Japan, and it is necessary to communicate via other ways such as face-to-face, and so on.

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note: Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).